

東南アジア日本食事情レポート⑧ ～日本食に対する現地のニーズや嗜好を探る～

シンガポール事務所

新潟市は、2月16日（日）～17日（月）に、シンガポールにおいて市単独では初となる食の販路開拓事業を実施しました。当地におけるニーズや嗜好等を把握し、今後の販路開拓に向けた足がかりとするため、一般消費者向けの「試食・試飲会」や、現地のバイヤーを対象にした「商談会」「レセプション」が行われました。

●試食・試飲会

シンガポールの中心部に位置するショッピングモール「リャンコート」にて、買い物客でにぎわう日曜日の16日に試食・試飲会が実施されました。現地消費者の嗜好などを把握するために、新潟産米・日本酒・地ビール・水産加工品・雪室コーヒーなど、様々な商品を来場者に実際に試食・試飲してもらうことで、その反応をうかがいました。

品質の良い新潟産の食は、来場者から好評を得ていました。また、試食・試飲に併せて一部商品は販売も行いましたが、シンガポール人来場者からは価格帯について高額だとの声も出る一方、中には気に入った商品であればかなり高額なものでも購入している人もいました。こうしたニーズの違いからも、海外への物産プロモーション活動を展開するうえでは、当地でのマーケティングをしっかりと行ったうえでのターゲット選定やそれに応じたプロモーション手法を綿密に検討していく必要があると感じました。



【試食・試飲会場の様子】

●商談会～夕食会

翌17日には、現地バイヤーを招いての商談会が実施されました。新潟市から7社・団体が出展し、日本食レストラン関係者、インポーター、ディストリビューター、日系・地場小売関係者など、27社の現地バイヤーとの商談が行われました。出展者は、前日の試食・試飲会での消費者の反応も参考としながら自社製品のPRを行いました。

同日夜には、商談会に参加したバイヤーなどを招いての夕食会が、日本食レストラン「IKYU」にて開催されました。夕食会で振る舞われた料理は、今回の商談会への出展企業の商品や食材を使って調理されたものであり、それを参加バイヤーが実際に飲食することで味・品質を確認してもらうだけでなく調理方法の提案にもつなげ、商品・食材への理解を深めてもらえるよう実施されました。



【商談会の様子】



【様々な料理が提供された夕食会】

新潟市は、今回の事業で得られた当地のニーズなどの情報をもとに、今後もシンガポールでの、またシンガポールから近隣国への販路拡大に向けた展開を図っていくとのことでした。

(関根所長補佐 新潟市派遣)

CLAIR